― コロナの中で介護の現場を守る ―

緊急事態宣言は解除されたものの、新型コロナウイルス感染症ウイルス感染者数は増えるばかり、そのさなかに Go to travel とはどういうことでしょうか。感染拡大には何ら対策を打たず、これでは不安になるばかりです。

7月12日、暮らしネット・えん第18回定例総会を開催いたしました。書面開催ではなく、通常の総会形式で人数を絞って開催しました。丁寧に説明して、しっかり質疑することをモットーにしていましたのに、大変残念です。

ここで、今年度の主な計画についてお知らせします。

【基幹相談センター開始】

今回、新座市からの委託業務『基幹相談支援センター』開始に伴う定款改定を行いました。高齢者相談センターの障がい者版のような業務で、虐待ケースなどに専門的な支援、地域の相談支援人材育成支援、など中核的な役割を担います。えんと言えば高齢者の介護という印象を持たれる方が多いと思いますが、そもそもの始まりは全身性障がい者の介助ボランティアグループです。訪問介護や生活サポート事業などを行い、2014年からは相談支援(障がい者・児ケアマネジメント)を行っています。

事業を行う中で、基幹相談支援センターの設置を新座市に求めてきた経緯があり、2020年度から新座市がこの事業をスタートすることになりました。しかしながら、これを担う法人になることは想定していませんでしたが、引き受けたからには、しっかり役割を果たせるよう力を尽くします。

【新型コロナウイルスとえん】

2月の終わりに感染が広がり始めたころから、すべての事業で感染防止策に取り組んでいます。介護サービスが停止してしまったら、利用者さんとご家族の生活はあっという間に崩れます。高齢者は重症リスクが高く、認知症がある方はこの状況を忘れてしまう。独居や老々世帯が多い中、遠方に住む子どもたちが介護のために来訪することさえ困難になっています。約8割が自宅ですから、在宅介護サービスの役割はたいへん大きいのです。ところが、訪問介護を始め在宅系の介護サービスは、報酬の引き下げなどで体力を弱らせていたところに、コロナの追い打ちで小さな事業所は風前の灯。閉鎖・倒産は何とか食い止めたい。

今年度は計画していたケアサポートえん恒例のお花見、認知症カフェ、だれでも食堂にいざ、えんが大切にしてきた地域とつながる催しは開けません。カフェや食堂の常連さんたちはどうしていらっしゃるでしょうか。介護サービスを利用している方々にはまだ見守りの目がありますが、介護未満の方々がとても心配です。まず、中止になった認知症カフェの日に認知症電話相談をすることになりました。これは市の方針でもありますが、えんは第三水曜日に10時